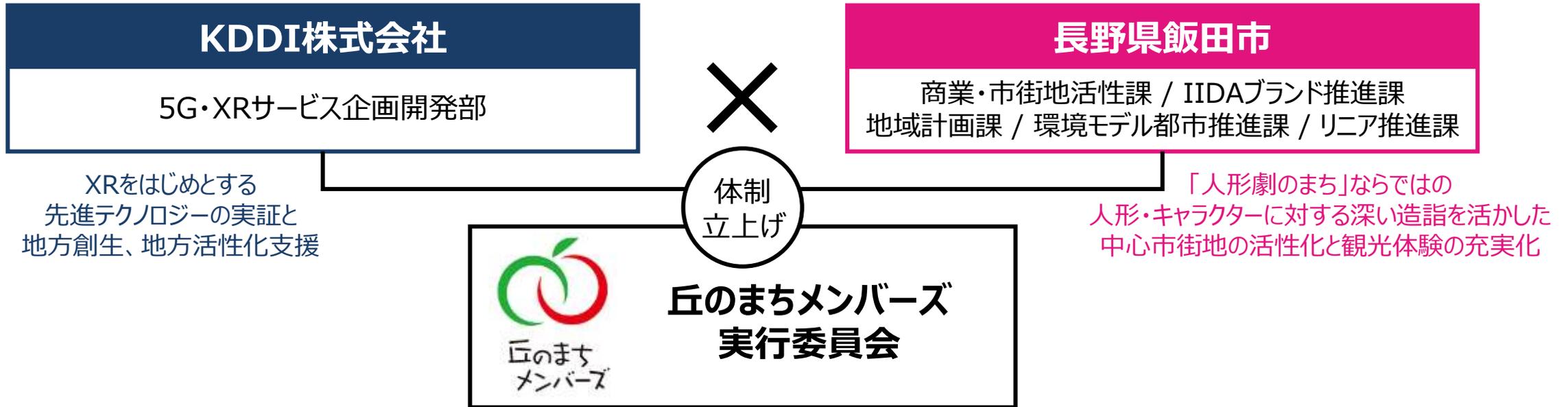


KDDI × 長野県飯田市の協働体制と実施目的



KDDIが推進するXRテクノロジーと飯田市の文化や歴史、アイデンティティの掛け合わせで飯田市民/飯田市を訪れる観光客が今までしたことのない、新しい体験ができるまちに。地方都市ならではの課題を解決しながら、まちの魅力の拡散と経済活性化を目指す。



取組みの概要

取組み①

バーチャルキャラクターによる 多言語(6か国語)対応ARガイド



KDDIのバーチャルキャラクター「レナ」が市役所の非常勤特別職員に就任。



2018年8月に飯田市で開催された国際イベントで多言語対応のARガイドを提供。多言語の翻訳ガイドという人材確保が困難な部分をキャラクターで代替。

技術要素 ロケーションAR、合成音声

ARアプリ開発

観光案内シナリオ、
地元専門学校生による
多言語翻訳

KDDI

飯田市

丘のまちメンバーズ
実行委員会

WEB AR
(KDDI)

市街地の施設・店舗の協力
(飯田市)

自動運転技術
VRアプリ・コンテンツ

観光案内シナリオ
交通規制

取組み②

自動運転とVRを組み合わせた 未来型の観光体験



一般公道を規制して自動運転の実証実験
抽選で当選した市民が乗車し自動運転体験。



自動運転の車内でVR端末を装着すると目の前に「レナ」が出現。
自動運転のライダー情報と連携していま走行している場所に合わせて観光案内。

技術要素 自動運転※、ロケーションVR
※技術協力：アイサンテクノロジー(株)
(株) ティアフォー、シナスタジア(株)

取組み③

ARスタンプラリー×まちの店舗/施設連携による ファンクラブ制度「丘のまちメンバーズ」

市内の対象店舗や施設をまわりARスタンプラリーに参加することで「丘のまちメンバーズ」に。メンバーになると対象店舗で割引などの特典を受けられるため、再訪促進や地域の経済活性化に寄与。

ARスタンプラリー
体験方法



技術要素 WEB AR

ARスタンプラリーの各スポットでは、キャラクターと記念撮影もでき、周遊先でユーザーが写真を撮ってSNS投稿することでバイラル効果も。

技術/システムの概要

取組み①技術要素

ロケーションAR

- ※ ロケーションに応じて自動的にコンテンツを制御する仕組み
- ※ KDDIにて特許取得済み

専用のアプリを起動し
スタート地点のQRコードを読み込



QRコードからの相対距離で
ユーザーの現在地を常に把握
→その場所に応じてコンテンツの
動作を制御する
例) Aの絵の前でAの絵の説明を再生

アプリを起動したまま
エリア内を回遊



取組み②技術要素

自動運転車に装着したライダー
(距離センサー)で周りの環境を判断し
それに同期してコンテンツを再生する仕組み

カメラ映像

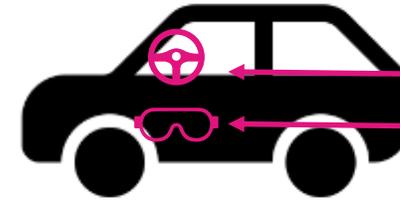


マッチング・位置/向きの把握

走行用地図



自動運転のためのライダー情報も
コンテンツの動作制御にも活用



走行の指示

コンテンツの表示

取組み③技術要素

ネイティブアプリ不要のWEB AR
※ WEBブラウザ上でARを再生する機能

従来の体験型ARサービス



体験の均質化のためには
専用端末の貸し出しが必要

従来の課題を解決

丘のまちメンバーズでの取組み



ユーザー自身の
スマホのため
体験後、すぐに
SNSシェアが可能

- ネイティブアプリのインストールが必要
- AR kit/coreを使用する場合、対象機種に限られる
- 機種に限られるため、体験用端末の貸出が必要

- WEBブラウザ上で使用するためアプリが不要
- 対象機種の保有率が高い為基本貸出は不要
- 広いエリアを回遊しての体験が可能